

**SDGs・ESDの推進と
環境対策について**

公明党 日吉 弘子



環境対策について

公明党 日吉 弘子

問 平成30年第2回定例会で、「SDGs持続可能な開発目標の取り組み」について一般質問を行いましたが、今後の方針性について伺います。

答 (市長) : 市では総合計画において行政分野の各政策に関係づけ、政策を進めることでSDGsの実現に寄与する形をとっています。今後は、今年4月に行う機構改革の中で、環境部門を中心に全序的な推進を図ってまいります。

問 市民へのSDGsの周知の充実とごみ削減に関する意識調査・アンケートの実施について伺います。

答 (経済環境部長) : 周知の充実については、ホームページなどで随時お知らせしたり、イベントなどを活用していくことも有効であると考えています。また、ごみ削減に関するアンケートは制度の充実を図るため必要ですので、適正な時期に内容を検討し、実施したいと考えております。

問 ESD(持続可能な開発のための教育)推進の充実のため、中央図書館や学校図書館でのSDGsの展示について伺います。

答 (教育部次長) : 中央図書館で2月中旬から3月末まで関連フェアを実施し、学校図書館でも中学校を中心に展示コーナーなどの設置を行っております。

問 「誰一人取り残さない」というSDGsの観点から、夜間中学の入学を希望される方への支援について伺います。

答 (教育長) : 相模原市に開校する予定の夜間中学での学習支援を、県と協議をしながら進めていきます。

問 下水道イメージアップ事業のために、マンホールカードの発行を提案していましたが、取り組みについて伺います。

答 (都市・建設担当理事) : カードのデザインとなるマン

ホールふたの製作など、発行に向けた準備に取り組んでいます。今後も下水道に興味や関心を持っていただくため、マンホールカードの発行や情報発信に努めています。

・他の質問

・新型コロナウイルス感染症ワクチン接種の対応について

**コロナ禍における経済と
社会問題について**

志政会 葉梨 之紀



社会問題について

志政会 葉梨 之紀

問 政府は2回目となる緊急事態宣言を年明けに首都圏などの11都府県に発令しました。対象になつた地域の経済規模は全国の60・6%に達しており、緊急事態宣言が3月21日まで再延長されたことによって個人消費は5・8兆円減少し、失業者は22万9千人増加すると予想されています。

今回、政府は飲食業の営業時間の短縮要請を対策の柱にしていますが、この結果、企業の経営破綻、雇用情勢の悪化、所得環境の低迷などにより幅広い分野で消費が抑制され、飲料・食料品製造業や農業などへ今後悪影響が拡大すると思われます。政府が経済活動への悪影響を警戒して拙速に緊急事態宣言などの規制措置を解除・緩和すれば、感染が再拡大する心配があり、社会不安にもつながります。

現実に市民に密着して対応し、対策を講じるのは地方自治体です。困窮する市民を助ける責任がありますが、市長の方針と覚悟を伺います。

答 (市長) : コロナ禍に伴う離職や減収により生活困窮の相談が多く寄せられています。市では生活保護制度や、生活保護に至る前の段階で自立を支援する生活困窮者自立支援制度によって包括的な支援をしています。さらに相談窓口「ライフナビ・えびな」を設置して、暮らし・住まい、仕事の相談を総合的に受け付けています。

また、市ができる生活支援と地域経済活性化策としてプレミアム付商品券を21億円発行します。前回の発行も小売店や飲食店に相当反響があったと聞いていますので、今後も何が必要かを見極めながら取り組みたいと考えています。

問 (教育長) : 相模原市に開校する予定の夜間中学での学習支援を、県と協議をしながら進めていきます。

問 下水道イメージアップ事業のために、マンホールカードの発行を提案していましたが、取り組みについて伺います。

答 (都市・建設担当理事) : カードのデザインとなるマン

ホールふたの製作など、発行に向けた準備に取り組んでいます。今後も下水道に興味や関心を持っていただくため、マンホールカードの発行や情報発信に努めています。

・他の質問

・新型コロナウイルス感染症対策について

**新たなまちづくりのための
公園整備について**

志政会 永井 浩介



公園整備について

志政会 永井 浩介

問 公園の整備運営の指針の策定では、高齢者に健康遊具といったニーズだけでなく、この地域をこうしていきたいという市の意思が必要だと考えていました。健康遊具より、携帯電話の万歩計を見るのを楽しみに散歩する高齢者が増えていると思います。散歩の途中の見晴らしのいい場所に、あずまやとはいかなくても、ベンチをつくつてあげることも健康推進になると思いますが、ご意見を伺います。

答 (市長) : 今は子育てのために子育て支援センターを設置していますが、昔は小さな公園での井戸端会議でした。その既存の公園の見直しを考えており、例えば50坪程度では災害時に避難できませんので、災害に備えて公園を拡大することも必要と考えています。散歩の途中に休むところも必要で、そういったニーズもあることは確かですが、総合的に考えていく必要があると思っています。

問 昔は考えもしなかった子育て支援センターをつくっています。同じ観点で、市は今の子どもたちが木登りできる環境をつくつしていくべきだと思います。大きな公園に複合遊具がさらに欲しいという声を子育て世代からよく聞きます。数千万円かかりますが、公園整備というより子育て支援という観点でつくついていただきたいのですが見解を伺います。

答 (市長) : 高座清掃施設組合が本郷に公園をつくり大型遊具を設けたら多くの人が訪れるようになりました。自分たちの地域が変りつつあると地元の方は言っています。

意外と今後の地域づくりは、公園の一つの再編によって新しく生まれ変わつて行くのではないかと思つています。

問 (教育長) : 高校生のための学習支援を、県と協議をしながら進めていきます。

答 (都市・建設担当理事) : カードのデザインとなるマン

ホールふたの製作など、発行に向けた準備に取り組んでいます。今後も下水道に興味や関心を持っていただくため、マンホールカードの発行や情報発信に努めています。

・他の質問

・新型コロナウイルス感染症対策について

